

地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会宇城支部

総合的な病虫害防除の確立をめざして

宇城地域におけるウリ類やナス科の施設栽培では、コナジラミ類やアザミウマ類といった微小害虫が媒介するウイルス病の発生が問題となっています。

防除対策として、微小害虫を「入れない」「増やさない」「出さない」ことが重要です。これまでは、「増やさない」ために殺虫剤を用いた化学防除に頼ってきましたが、近年は、薬剤抵抗性が発達した農薬成分もあります。今後は、自然環境に配慮した農業を推進する観点からも、化学防除だけに頼らず、天敵や物理的防除を用いた総合的な防除体系の確立が求められています。

そこで、宇城地域では、令和3年産のナスとキュウリで総合的病虫害防除の実証展示ほを実施しています。ナスでは、「入れない」対策として、ハウスの外周に高反射シートを展張し、微小害虫の飛び込みを抑える効果を確認します。また、キュウリでは、高反射シートの展張とともに、「増やさない」対策として、ハウスの谷部分に粘着トラップを張り巡らし、併せて天敵スワルスキーカブリダニを活用することで、微小害虫の侵入防止・増加抑制の効果を検討します。

今後、防除効果や費用対効果等を調査し、結果は講習会や現地検討会等で関係機関及び生産者に情報提供して、普及拡大を図っていく予定です。



高反射シートの展張



粘着トラップの設置



天敵放飼